

教科（科目）	商業（財務会計Ⅱ）	単位数	2	学年（コース）	3学年（ビジネスコース）
使用教科書	実教出版『財務会計Ⅱ』				
副教材等	実教出版『日商簿記検定模擬試験問題集3級』				

1 学習目標

財務会計に関する知識と技術を習得させ、会計責任を果たすことの重要性について理解させるとともに、会計情報を提供し、活用する能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- ① 資産会計、負債、純資産会計など財務会計に関する知識と技術を習得させる。
- ② 経済社会において会計責任を果たすことの重要性について理解する態度と能力を養う。
- ③ 会計情報を利害関係者に提供する能力と態度および提供された会計情報を活用する態度と能力を育てる。

3 学習計画

月	単元名	学習活動（指導内容）と方法	時間	評価方法
4	第1編 総論-財務会計の基本 概念と会計基準-	・財務会計の基本概念を理解し、会計基準の特徴をおよびどのように国際化に対応しているかを理科する。		中間考査・期末考査、および学年末考査など
5	第1章 財務会計の基本概念 第2章 資産負債アプローチと 収益費用アプローチ 第3章 会計基準の国際的統合		3 3 2	課題の提出や締切の厳守など 授業に取り組む姿勢、授業態度、出席状況など
6	第2編 各論〔1〕 -財務会計の実際-	・貸借対照表に関する各種の会計処理をおこなうためさらに進んだ内容を学習する。		以上を、総合的に評価する
7	第4章 資産会計 第5章 負債会計		8 8	
9	第6章 純資産会計		8	
10	第7章 リース会計 第8章 税効果会計	・リース取引の意味と分類、各種の会計処理を学習する。 ・税効果会計の意味を単純な例題を用いて理解させる。	3 3	1学期と同様
11	第3編 各論〔2〕 -企業活動の展開と財務会計- 第9章 外貨換算会計 第10章 キャッシュ・フロー 計算書	・外貨建取引の意義や為替換算、為替差益差損について理解し、基本的な会計処理について学習する。 ・キャッシュ・フロー計算書の意義と必要性及び資金の範囲について理解する。	3 6	
12	第4編 各論〔3〕 -企業結合の会計- 第11章 企業結合会計	・近年よく行われる企業結合について理解し、その支配関係について知るとともに、処理の仕方を学習する。	3	
1	第12章 連結財務諸表の作成 第13章 連結財務諸表の作成	・支配獲得後の追加取得やそれに伴う連結財務諸表の作成、持ち分法の意義、会計処理について学習する。	5 5	1・2学期と合わせて総合的に評価する
2	第5編 財務諸表の活用 第14章 財務諸表の活用 第6編 監査法人と職業会計人 第15章 監査と職業会計人	・財務諸表を使うことにより、企業グループの現状把握や企業価値の評価の仕方について学習する。 ・財務諸表の誤りや不正、利害関係者への影響力について理解し、信頼性を高める監査のあり方について学習する。	2 2	

計64時間(55分授業)

4 課題・提出物

- ・各学期ごとの定期考査と課題提出があります。
- ・各種検定の受験をします。

5 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
実務や新しい分野の会計に関心を持ち、その基本的かつ実践的な知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組むとともに、会計を活用して企業の実態を的確に捉えることができる。	実務や新しい分野の会計について、なぜ、そのような計算や処理を行うのかなど自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力が身に付いている。	実務や新しい分野の会計に関する基礎的・基本的な技術を習得し、ビジネスの諸活動を計数的に把握し、的確に処理するとともに、その成果を適切に表現できる。	実務や新しい分野の会計に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、新会計基準や税法の基本的な考え方・処理法を理解している。

以上の観点をふまえ、
 ・学習に対する意欲や態度、思考力や表現力など
 ・検定に向けての取り組みや出欠状況など
 ・定期考査や課題提出、および締め切りの厳守などを総合的に評価する。

6 担当者からの一言

受験予定の検定試験は以下のとおりです。
 全国商業高等学校協会主催 全商簿記実務検定1級（会計）（1月）
 日本商工会議所主催 簿記検定2級（6月、11月、2月）